

平成29年度 国語総合（1年）シラバス

校長	教頭	

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1	単位数	3
使用教科書	高等学校 新編国語総合(第一学習社)			担当者氏名	印		

学習の到達目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
---------	--

評価の観点				
a. 関心・意欲・態度	b. 話す・聞く能力	c. 書く能力	d. 読む能力	e. 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	e	評価方法
6	挨拶上手	<ul style="list-style-type: none"> 随想の読み方を習得する。 自分を取り巻く世界について発見するきっかけとする。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
6	意見を述べる	<ul style="list-style-type: none"> 意見文の書き方を理解し、実際に意見文を書く。 意見文をもとに発表する。 意見文を書いたり他の人の意見を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げる。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 構想メモの提出 意見文の提出
8	指	<ul style="list-style-type: none"> 短編小説のおもしろさを味わい、鑑賞のしかたを習得する。 登場人物の心情の変化を的確に読み取る。 小説を自分の経験に引きつけて読む態度を養う。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
3	古文の学習	<ul style="list-style-type: none"> 古文を学習する意義を知り、今後の学習に意欲を持つ。 古文と現代文の違いを理解する。 伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 指名音読
5	鳩と蟻のこと	<ul style="list-style-type: none"> 古文を声に出して読み味わい、その調べに親しむ。 歴史的仮名遣いを理解する。 文語と口語の違いを理解する。 古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解する。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
3	道程	<ul style="list-style-type: none"> 詩の鑑賞のしかたを習得する。 詩に込められた心情を理解する。 作者の人生観、自然観について考える。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出
3	小景異情	<ul style="list-style-type: none"> 詩の鑑賞のしかたを習得する。 文語詩の特徴を理解する。 詩に描かれた心情を味わい、想像力や感受性を養う。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出
5	創作をする	<ul style="list-style-type: none"> 創作のしかたを理解し、実際に創作をする。 創作をしたり読んだりすることにより、創作の楽しさを味わうきっかけとする。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 創作の提出

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	e	評価方法
6	日本語のこころ	<ul style="list-style-type: none"> 論理的要素を持つ随想を的確に読解する。 身近な表現から、言葉を通して日本人の発想や心情などを理解する態度を養う。 日本語の特徴について考え、我が国の文化と外国の文化との関係に気づく。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
8	イースター島になぜ森がないのか	<ul style="list-style-type: none"> 評論の読解方法を身につける。 生態系や自然破壊について認識を深める。 人類の存続という問題を自分の問題として考える姿勢を養う。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
1	漢文の学習	<ul style="list-style-type: none"> 漢文を学習する意義を知り、今後の学習に意欲を持つ。 漢文を自国の文化に取り入れた先人の工夫を理解し、今後の学習のポイントを理解する。 我が国の文化と外国の文化との関係に気づき、伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 指名音読
8	漢文入門	<ul style="list-style-type: none"> 漢文に親しみを持つ。 漢文の構造を理解し、漢字・漢語の正しい意味・用法を理解する。 訓読のきまり・書き下し文のきまりを理解する。 漢和辞典の引き方に慣れ、学習に役立てることができるようになる。 古代中国人のものの見方・考え方を知り、それとの比較を通して、日本文化をより深く理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 課題の提出 定期考査
6	故事成語 『五十歩百歩』 『矛盾』	<ul style="list-style-type: none"> 漢文訓読の基本事項を確認する。 平易な短い文章を読み、漢文の内容を理解する。 故事成語のもとになった話の内容を捉えたとうえで、故事成語の現在使われている意味について理解する。 古代中国人のものの見方・考え方を知り、それとの比較を通して、日本文化をより深く理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
8	よだかの星	<ul style="list-style-type: none"> 童話的な作品の鑑賞のしかたを身につける。 生きることに對する思いと理解を深め、話し合いをする。 個性的な文章表現を味わう。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
4	児のそら寝	<ul style="list-style-type: none"> 古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解する。 話を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 既習の知識をもとに、部分的な口語訳ができるようにする。 用言の活用について理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
4	人はなぜ仕事をするのか	<ul style="list-style-type: none"> 論理的要素を持つ随想を的確に読解する。 口語的な表現の効果について考える。 仕事をすることの意義について主体的に考え、話し合う。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
6	十六歳のとき	<ul style="list-style-type: none"> 随想の読み方を習得する。 同年代の若者の心象に触れ、自らの人生について考える姿勢を養う。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
4	竹取物語	<ul style="list-style-type: none"> 昔話としてなじみのある作品を読み、古文に親しむ。 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 口語訳の力を身につける。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
4	寓話・小話 『梟逢鳩』	<ul style="list-style-type: none"> まとまった文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 寓話・小話の意味や教訓を読み取る。 中国古典に現代にも通用する考えがあることを理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
4	漢詩の鑑賞 『春暁』 『送元二使安西』 『春望』	<ul style="list-style-type: none"> 唐詩を読み味わい、中国古典文学への関心を高める。 中国の自然や、人間の心理が、詩にどのようによまれているかを考える。 漢詩のきまりについて理解する。 詩に表現された作者の心情について理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
2	創作をする	<ul style="list-style-type: none"> 創作のしかたを理解し、実際に創作をする。 創作をしたり読んだりすることにより、創作の楽しさを味わうきっかけとする。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 創作の提出
3	言語活動 情報探索の方法 と実践	<ul style="list-style-type: none"> 目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。 収集した情報を整理して発表する。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 課題の提出

平成29年度 国語総合（2年）シラバス

校長	教頭	

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	2	単位数	2
使用教科書	高等学校 新編国語総合(第一学習社)			担当者氏名	印		

学習の到達目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
---------	--

評価の観点				
a. 関心・意欲・態度	b. 話す・聞く能力	c. 書く能力	d. 読む能力	e. 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	e	評価方法
4	身近な動植物の名を覚えよう	<ul style="list-style-type: none"> 随想の読み方を習得する。 名前とはどういうはたらきを持つものか考える。 身近な世界に目を向けるきっかけとする。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
4	意見を述べる	<ul style="list-style-type: none"> 意見文の書き方を理解し、実際に意見文を書く。 意見文をもとに発表する。 意見文を書いたり他の人の意見を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げる。 	○	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 構想メモの提出 意見文の提出
6	島の少年一船	<ul style="list-style-type: none"> 現代小説の基本的な読解方法を習得する。 登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 小説を自分の経験に引きつけて読む態度を養う。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
4	一休ばなし	<ul style="list-style-type: none"> 古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。 話を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 文語文と口語文の違いを理解する。 活用の概念を理解する。 係り結びの法則を理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
2	六月	<ul style="list-style-type: none"> 詩の鑑賞のしかたを習得する。 詩に描かれた情景とそこに込められた思いを理解する。 現代の社会に対する作者の考え方を捉える。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出
4	大切な言葉	<ul style="list-style-type: none"> 近代短歌の鑑賞のしかたを習得する。 近代短歌の代表的な作品を読み味わい、鑑賞文を書く。 日本語への理解を深め、想像力や感受性を豊かにする。 短歌の特徴について、興味・関心を持つ。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 鑑賞文の提出
2	創作をする	<ul style="list-style-type: none"> 創作のしかたを理解し、実際に創作をする。 創作をしたり読んだりすることにより、創作の楽しさを味わうきっかけとする。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 創作の提出

時数	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	e	評価方法
4	言葉の海のオノマトペ	<ul style="list-style-type: none"> 論理的要素を持つ随想的に読解する。 日本語の表現力・おもしろさに関心を持つ。 オノマトペを検証し、自身の表現力の向上を図る。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
3	枕草子 『春は、あけぼの』 『はしたなきもの』	<ul style="list-style-type: none"> 随筆を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 文体の特色を理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
8	羅生門	<ul style="list-style-type: none"> 近代の代表的な小説を読んで、読解力を養う。 登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 時代小説という形の中に普遍的な人間心理が描かれていることを理解する。 感想文を書いて作品鑑賞を深める。 	○		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 感想文の提出 定期考査
2	言語活動 脚本を書く	<ul style="list-style-type: none"> 脚本の書き方を習得する。 原作をよく読んで脚本を書くことで、豊かな表現力を養う。 	○		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 課題の提出
3	徒然草 『つれづれなるまに』 『仁和寺にある法師』	<ul style="list-style-type: none"> 随筆を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 助動詞について理解し、読解に生かす。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
6	故事成語 『狐借虎威』	<ul style="list-style-type: none"> 漢文訓読の基本事項を確認する。 平易な短い文章を読み、漢文の内容を理解する。 故事成語のもとになった話の内容を捉えたうえで、故事成語の現在使われている意味について理解する。 古代中国人のものの見方・考え方を知り、それとの比較を通して、日本文化をより深く理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
3	資料に基づいて説明する	<ul style="list-style-type: none"> 資料を口頭で説明する際の留意点を理解し、実際に説明をする。 相手に必要な情報が正確に伝わるよう配慮することの重要性に気づく。 	○	○			○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 説明内容 課題の提出
4	「ネットの時代」をどう生きるか	<ul style="list-style-type: none"> 評論の読解方法を身につける。 ネットの本質について認識を深める。 ネット社会での生き方について、自身の問題として考える姿勢を養う。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
3	スピーチをする	<ul style="list-style-type: none"> スピーチをしたり聞いたりする際の留意点を理解し、実際にスピーチをする。 スピーチの意義や、スピーチによる交流の楽しみを理解する。 	○	○			○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 スピーチ内容 ノート提出 感想文の提出
3	寓話・小話 『両頭蛇』	<ul style="list-style-type: none"> まとまった文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。 寓話・小話の意味や教訓を読み取る。 中国古典に現代にも通用する考えがあることを理解する。 	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
2	漢詩の鑑賞 『静夜思』	<ul style="list-style-type: none"> 唐詩を読み味わい、中国古典文学への関心を高める。 中国の自然や、人間の心理が、詩にどのようによまれているかを考える。 漢詩のきまりについて理解する。 詩に表現された作者の心情について理解する。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
4	数の不思議に魅せられて	<ul style="list-style-type: none"> 随想の読み方を習得する。 数と比較したとき見えてくる人間の姿を通して、さまざまな観点から人間を見つめる姿勢を養う。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 学習課題集の提出 定期考査
3	言語活動 記録文を読む・ロボットとは何か	<ul style="list-style-type: none"> 記録文の読み方を習得する。 ロボット演劇の話題を通して、「心とは何か」を考えるきっかけとする。 記録文の特徴について、興味・関心を持つ。 	○	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 課題の提出
3	言語活動 情報探索の方法と実践	<ul style="list-style-type: none"> 目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。 収集した情報を整理して発表する。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 指名音読 課題の提出

科目名	教科名	学年	単位数	担当者氏名	印
国語	古典A	3年	2単位		

校長	教頭	

I. 科目「古典A」について

学習の到達目標	古典としての古文と漢文，古典に関連する文章を読むことによって，わが国の伝統と文化に対する理解を深め，生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。
使用教科書	教育出版「古典文学選」

I 評価の視点・考査について

- ・ 評価は，定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に，出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提出物（思考・判断）などを総合的に判断して行う。また，定期考査時には学習内容を中心とした考査をそれぞれ100点満点で行う。さらに，小テストは重要古語・文法・重要句型に関するものを適宜実施するほか，音読や暗誦のテストも実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・ グループ学習等による発表活動については，教師の評価のほかに，生徒相互による評価も行い，各学期の評価を決める際の資料として活用する。さらに，各学習のまとめ段階では，自己評価や相互評価も活用する予定である。
- ・ なお，年間授業時間数の1/3以上を欠席すると単位を認定しないので注意すること。
※各学期において授業時数の3分の2以上出席していない生徒は評価保留とし，評価を「0」とする。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ わが国の文化や伝統に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図り，すすんで理解しようとするとともに，理解したことがらを伝え合おうとする。 ・ 課題に積極的に取り組もうとする。 ・ 人の発言をよく聞きながら，自らも考えを積極的に発言しようとする。 ・ すすんで古典に親しもうとする。 ・ 自己評価や相互評価に真剣に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席状況 ・ 取り組み態度 ・ 発言とその内容 ・ ノート点検 ・ 自己評価と相互評価
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文・漢文を音読したり暗誦したりすることに積極的に取り組んでいる。 ・ 自分の考えをまとめたり深めたりして，目的や場面に応じ，筋道を立てて効果的に発言したり友達の意見を的確に聞き取ったりする。 ・ グループ学習での役割を積極的に果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読や朗読・暗誦 ・ 発言の方法・内容 ・ 自己評価と相互評価
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文・漢文の本文を正確にノートに写し取り，予習に活用する。 ・ 発表資料やレポートの作成にあたり，自分の考えをまとめたり深めたりして，効果的な表現を考えながら筋道を立てて文章にまとめる。 ・ 読み取った作品に対する感想や，その作品に対する批評・鑑賞を文章としてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ノート点検 ・ 作業プリント ・ 発表方法や発表資料 ・ 自己評価と相互評価
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に「読むこと」の学習に取り組み，語彙力をつける。 ・ 古文・漢文の内容を正確に理解し，現代語訳を作成する。 ・ 自分の考えを深めたり発展させるために，目的に応じてさまざまな資料や副教材を読み比べたり，幅広く読書したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 音読や発言 ・ ノート点検 ・ 自己評価と相互評価
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現と理解に役立てるための音声，文法，表記，語句，語彙，漢字等を理解し，知識を身につける。 ・ 本文の読解に必要な言語事項を理解し，読解に活用する。 ・ 作品の背景について，理解を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ ノート点検 ・ 自己評価と相互評価

◎＝単元の目標、【読】＝読む力、【知】＝知識・理解

学	月	時	単元名	作品名	単元の目標	評価及び観点
1	4	2	古典文法等の復習 (古文)	国語総合「古文」の既習事項の確認	国語総合にて学んだ事項の確認 ◎口語文法の確認と練習問題をこなし、定着させる。	<p>【知】口語文法について理解している。(確認テストなど)</p> <p>1. 歌物語の特色や主な作品に関する文学史的な基礎知識を整理し、文学史の流れの中に位置づける。</p> <p>2. 通過儀礼や結婚に関する古典常識について整理する。</p> <p>3. 和歌の修辞について簡単に整理する。</p> <p>4. 各章段を、話の展開と登場人物の心情に注意して読み取り、歌の鑑賞に結びつける。</p> <p>5. 動詞の活用について、解釈と関連させながら暗記すべきことを確認する。</p> <p>【読】正確な読解をもとにして、話の展開や登場人物の心情を理解している。(音読・発言・ノート・定期考査など)</p> <p>【知】和歌の修辞の理解、および、歌物語の知識を読解に結びつけている。(発言・定期考査など)</p>
		2	古文編	『伊勢物語』	◎『伊勢物語』を読み、話の展開	
		3	一 歌物語	初冠 筒井筒	をたどりながら、和歌にこめられた登場人物の心情を読み取り、鑑賞することで、歌物語の世界にふれる。	
5	2	2	二 和歌	万葉集	◎日本文芸の中核をなす和歌の作品群にふれ、短詩形の中に詠まれた情景や心情を読み取り、鑑賞するとともに、コミュニケーションツールとしての和歌の姿をとらえ、伝え合う力について考える。	<p>1. 和歌の修辞について理解を深める。</p> <p>2. 主な歌集や歌人について、基礎的な知識を文学史の流れの中に位置づける。</p> <p>3. 各作品に詠み込まれている情景や心情を理解し、鑑賞する。</p> <p>4. コミュニケーションツールとしての和歌の役割について、現代のコミュニケーションツールと関連づけながら考える。</p> <p>【読】正確な読解をもとにして、詠み込まれた情景や心情を理解している。(音読・発言・ノート・定期考査など)</p> <p>【知】和歌の修辞の理解、および文学史の知識を読解に結びつけている。(発言・定期考査など)</p>
		2		古今和歌集		
		2		新古今和歌集		
		2		鑑賞会		
6	2	2	古典文法等の復習	国語総合「漢文」の既習事項の確認	国語総合にて学んだ事項の確認 ◎訓読のきまりの確認と練習問題をこなし、定着させる。	<p>1. 音読・朗読によって漢文の調子を味わう。</p> <p>2. 返り点や送り仮名に従って、正確に訓読できるようにする。</p> <p>3. 漢文特有の語句の読み方や意味を理解する。</p> <p>4. 文脈に即した的確な現代語訳ができるようにする。</p> <p>5. 登場人物の言動を通して、その心理・心情を読み取る。</p> <p>【知】訓点に従い正確に訓読をしている。(発言・朗読など)</p> <p>【知】漢文特有の語句や句型を理解している。(発言・板書・ワークシート・定期考査など)</p> <p>【読】文章中の機知や行動の意味などを理解している。(発言・ワークシート・定期考査など)</p> <p>【読】登場人物の心理・心情を読み取っている。(発言・発表・定期考査など)</p>
		3	漢文編	季札挂劍『史記』	◎比較的短い2つの逸話作品の	
		3	一 逸話	先従隗始『十八史略』	読解を通して、漢文への興味・関心を深める。	
7	2	2	漢文編	鴻門の会	◎史記を読解しながら、項羽と劉邦を中心とした多彩な登場人物の描写を味わうとともに、作者司馬遷の人間に対する観察眼、洞察力にふれる。	<p>1. 司馬遷が史記を著すにいたった経緯を理解する。</p> <p>2. 重要語句の意味について理解する。</p> <p>3. 使役・反語・受身・疑問・抑揚などの句型を理解する。</p> <p>4. 場面ごとに登場人物・構成・展開に即してあらすじを的確に把握する。</p>
		1	二 史記	四面楚歌		
		1		項王の最期		
		1		題烏江亭		

学	月	時	単元名	作品名	単 元 の 目 標	評価及び観点
1	7		漢文編 二 史記			<p>5. 登場人物の行動やその背景にある心理を考える。</p> <p>6. 「題烏江亭」に詠み込まれた作者の思いを考える。</p> <p>【知】 語句の意味や重要な句型について、理解を深めている。(発言・ワークシート・定期考査など)</p> <p>【読】 場面ごとの話の展開を的確につかんでいる。(発言・ワークシートなど)</p> <p>【読】 登場人物の人物像や心情を理解している。()</p> <p>【読】 「題烏江亭」の主題をつかんでいる。(発言・発表・定期考査など)</p>
2	9	2 2	古文編 三 軍記物語	『平家物語』 忠度都落ち 能登殿最期	◎『平家物語』を読み、登場人物の行動とその背景にある心情を読み取り、武士の生き方について考える。	<p>1. 文学史的な基礎知識を整理し、主な登場人物やあら筋について簡単に紹介する。</p> <p>2. 武器や馬具などについて、視聴覚教材を活用して紹介する。</p> <p>3. 平曲などについて、視聴覚教材を活用して紹介する。</p> <p>4. 各章段を、繰り返し音読し、それを読解に結びつける。</p> <p>5. 登場人物の行動や心情、和歌に託された思いを読み取り、無常観に関する知識をもとにして、争乱の時代に生きた人々の姿について考察する。</p> <p>【読】 正確な読解をもとにして、登場人物の人物像と心情を理解し、争乱の時代に生きた男女の姿に、思いをはせている。(発言・ノート・話し合い・定期考査など)</p>
		2 1 1	四 随筆	『方丈記』 行く川の流れ 養和の飢饉 日野山の閑居	◎『方丈記』を読み、人間・社会・自然などについて、現代日本の状況と関連させながら考察することで、人間の生き方や無常観に関する理解を深める。	<p>1. その時代や無常観について知識を整理する。</p> <p>2. 各章段を、比喩や対句に注意して、正確に読解する。</p> <p>【読】 正確な読解をもとにして、描かれた情景や作者のものの見方、感じ方、考え方について、理解を深めている。(音読・発言・ノート・定期考査など)</p>
	10	2 2	漢文編 三 詩歌	詩 竹里館 (王維) 秋浦歌 (李白)	◎詩に詠み込まれた情景や作者の心情を読み味わう。	<p>1. 形式・押韻・対句などの基本的なきまりを理解する。</p> <p>2. 仮定・疑問などの句型を理解する。</p> <p>3. 作者がいつどこで詩を詠んだかを手がかりに、詩の各句の情景を想像し、詩の主題について考える。</p> <p>【知】 近体詩のきまりについて理解している。(発言・ワークシート・定期考査など)</p> <p>【読】 詩の読解を通して、ものの見方、感じ方、考え方が豊かになっている。(発言・レポートなど)</p>
		4		文 桃花源記 (陶潜)	◎陶潜の文章を読み、そこに表れた人間・社会・自然などに対する筆者の思想、考え方を理解する。	<p>1 「桃花源記」の内容を、構成や展開に即して的確に捉える。</p> <p>2 指示語のさす内容や接続詞の用法などを正確につかむ。</p> <p>3 部分否定・疑問・使役などの句型を理解する。</p> <p>【知】 指示語の内容や接続詞の用法を理解している。(発言・ワークシート・定期考査など)</p> <p>【読】 「桃花源記」の構成や内容を的確に捉えている。(発言・ワークシート・定期考査など)</p>

学	月	時	単元名	作品名	単元 の目 標	評価及び観点	
2	11	3	漢文編	関羽と張飛『三国志』	◎『三国志』の英雄にまつわる話を読み、登場人物の人物像や性格を読み取るとともに、その英雄たちが織りなす世界のおもしろさにふれる。	1. 当時の時代背景と地理関係を把握する。 2. 受身・使役・仮定・二重否定などの句型を理解する。 3. 登場人物の性格を読み取り、それぞれの人物の特徴を把握する。 【知】 重要な句型の意味・用法について理解を深めている。(発言・ワークシート・定期考査) 【読】 三国志の英雄について、人物像を理解している。(発言・ワークシート・定期考査)	
		3	四	諸葛孔明『十八史略』			
		2	三国志	赤壁の戦い 『十八史略』			
	12	2	古文編	『大鏡』	◎『大鏡』を読み、描かれたエピソードや、登場人物のさまざまな人間像を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方について理解を深めるとともに、そのエピソードや人物について語る語り手のスタンスを正しく捉えて鑑賞する。	1. 文学史的な基礎知識を整理する。 2. 語り手の人物像を捉える。 3. 各章段を、登場人物の行動に注意して読み取り、その背景にある心情を考えながら人物像についてまとめる。 4. 語り手が、その人物をどのように評価しているのか考察する。 5. 他の作品や日本史学習と関連させながら、人物像を立体化する。 6. 助動詞の活用表を使って助動詞の基礎知識を整理し、読解と結びつける。 7. さまざまな助詞の用法について、語り手の発言内容とからめながら理解する。 【読】 正確な読解をもとにして、登場人物の行動や心情を捉えている。(発言・ノート・定期考査など) 【知】 歴史物語の特色について理解し、その知識を読解に結びつけている。(発言・ノート・定期考査など)	
			五	道真左遷			
			歴史物語	三船の才 中宮安子の嫉妬			
3	1	3	六	二月つごもり頃に	◎『枕草子』を読み、作者清少納言が描いた宮廷社会の伝統と文化について読み味わい、理解を深める。	1. 作品と作者について、文学史的な基礎知識を整理する。 2. 撰閣政治期の貴族社会の状況や、貴族の生活・教養に関する古典常識を整理する。 3. 各章段を、登場人物とその行動・発言に注意して正確に読み取り、その背後にある心情を理解する。 4. 清少納言と定子との関わりを考察する。 【読】 正確な読解をもとにして、行動や発言の背後にある心情を理解している。(発言・ノート・定期考査など) 【知】 宮廷文化や宮廷女房の存在について、文学史と関連させながら理解している。(発言・定期考査など)	
		3	随筆(二)	殿などのおはしまさ で後 中納言参り給ひて			
	2	2	八	評論	無名草子	◎評論を読み、古典文学の根底にある発想を知ること、わが国の伝統と文化について理解を深める。	1. 文学史的な基礎知識を整理する。 2 『無名草子』を読み、清少納言と紫式部の人物像について考察する。 【読】 各作品で話題になっていることを正確に読み取り、日本文学史の根底にある多様な視点について理解している。(発言・話し合い・ノート・定期考査など) 【知】 人物論・和歌論・物語論を支える発想法を理解している。(発言・定期考査など)
			2		清少納言 紫式部		

平成29年度シラバス

科目名	教科名	学年	単位数	担当者氏名	印	校長	教 頭	
国語	国語表現	3年	2単位					

1 / 3

1 科目「国語表現」について

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や創造力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
使用教科書	大修館書店「国語表現」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
言語文化に対する関心を持ち、言語感覚を磨き、思考能力を高めるとともに、自分の意志を的確に表現し、伝えようとする意欲、態度が伺える。	自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、効果的に話したり的確に聞き取ったりする能力、相手の立場を考慮を尊重して話し合う能力を身に付けている。	題材の選択及び効果的な表現をする能力、論理的な構成による文章表現能力、表現に役立てるための文章研究の成果が見られる。	言葉遣い、語彙力、漢字力、文法力、文学史をはじめとする言語、文学に関する知識を深めている。
出席状況、提出物 平常の学習活動、学習態度、自己評価等	授業での発表、質疑に対する 応答、ディベート等	小論文、作文、ペーパーテスト、作品等	ペーパーテスト、豆テスト、平常の学習活動、提出物等

3 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。(例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙)

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において授業時数の3分の2以上出席していない生徒は評価保留とし、評価を「0」とする。

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容（評価の観点）及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材											
1	4	2 2 1 1	書いて伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく読みやすい、整った文章を書く力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くための基本を理解する。 ・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。 ・接続表現の種類と働き、文脈による文のつながりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みの観察 ・ワークシート ・相互批評 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 小テスト 											
			5					小論文・レポート入門	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の書き方の基本を学ぶ ・情報を収集・分析し、自分の考えを深め、それを効果的に伝えられるよう、論理の構成、文体などについて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。 ・自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 ・反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。 ・文章の要旨をつかむための方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。 ・発想を広げるための方法を理解する。 ・発想を広げるための方法を活用して小論文を書く。 ・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みの観察。 ・ワークシート ・「課題」への取り組み、作品の確認。 ・相互批評 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 小テスト 						
								6					2 2	自己PRと面接	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望を持つ ・自分の特徴を他者に的確に伝える力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。 ・自分の長所を端的に表現した、印象に残るキャッチフレーズを作る。 ・事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。 ・就きたい職業に就くために必要なことを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みの観察 ・「課題」への取り組み、作品相互批評 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 中間テスト

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容（評価の観点）及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材	
2	9	3	メディアを駆使する	・メディアによる 特性・特徴の違い について理解する ・相手や目的に応 じてメディアを 選択し、効果的に 表現する	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書 く。 ・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理 解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや対応のしかたを理 解する。 ・情報が編集されたものであることを理解する。	・授業の取り組みの 観察 ・ワークシート	ワークシ ート	
		2	(1)通信文を書き分ける					
		2	(2)電話を使いこなす					
		2	(3)ネット社会とコミュニ ケーション					
	10	2	(4)メディアと情報	・目的に応じて情 報を整理し、内容 や表現のしかた を工夫して話し たり聞いたりす る	・相手に応じた適切な言葉遣いや対応のしかたを理 解する。 ・情報が編集されたものであることを理解する。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え 方が異なることを理解する。 ・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、 コミュニケーションについて新たな発見をする。 ・コミュニケーションの楽しさを感じる。 ・文章の内容に応じてふさわしい声の使い方を工夫 し、効果的に朗読する。 ・話すことの順序を考えて、わかりやすいショート スピーチをする。	・授業の取り組みの 観察 ・「課題」への取り 組み、観察、発表相 互批評 ・ワークシート	ワークシ ート	
		11	2					声のコミュニケーショ ン
			3					(1)言葉のストレッチ体 操
			3					(2)リーダーズシアター を開こう
	12	3	(3)ショートスピーチを しよう	・場に応じた適切 な表現や、目的に 応じた効果的な 表現を意識して、 話したり聞いたり する	・話し手が話しやすい聞き方をする。 ・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをする。 ・司会者などの役割を理解し、建設的な議論になる ように協力し合いながら話し合いをする。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢 献する。 ・視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテー ションをする。	・授業の取り組みの 観察 ・ワークシート ・プレゼンテーショ ン相互批評	ワークシ ート	
		3	会話・議論・発表					
			5					(1)相手や場面に 応じた会話
			6					(2)議論して結論を出 す
3	1	6	(3)プレゼンテーション の工夫	・季節の挨拶の仕 方を学び、年賀状 を作成する	・日本の伝統的な習慣の一環として年賀状の存在を 再認識し、作成させる。 ・自分の歩みと社会の変容を有機的に結び付けて統 括する視点を育てる。	・授業の取り組みの 観察。 ・作品の出来栄え	はがき	
		2	年賀状を書こう ・年賀状の作成					
		2	自己との対話					
			3					(1)年譜を作ろう
3	2	3	(2)材料を集めよう	・自らの半生を振 り返り、文章化さ せる中で、客観的 な視点を身につ ける	・周囲からの取材によって自らを客観的に見ながら、 資料で位置付ける視点を養わせる。 ・まとまった文章を書き上げることで、論理的で効 果的な表現を身につけさせる。 ・自らの書いたものをまとめて読み直し、記録を残 させる。	・授業の取り組みの 観察 ・「課題」への取り 組みの観察 ・作品の出来栄え	ワークシ ート	
		4	(3)自分史を書こう					

科目名	教科名	学年	単位数	担当者氏名	印
国語	表現探求	3年	2単位		

校長	教頭

／3

1 科目「表現探求」について

学習の到達目標	国語を適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や創造力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
使用教科書	第一学習社「小論文チャレンジノート vol. 2」 第一学習社「1日10分言語力ドリル 書く」

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
言語文化に対する関心を持ち、言語感覚を磨き、思考能力を高めるとともに、自分の意志を的確に表現し、伝えようとする意欲、態度が伺える。	相手の立場や異なる考えを尊重して問題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う能力を身に付けている。	主張や感動が効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方を工夫して書く。また目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に書く能力がある。	話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする能力を身に付けている。
出席状況、提出物 平常の学習活動、学習態度、自己評価等	授業での発表、質疑に対する 応答等	小論文チャレンジノート、 言語力ドリル 課題	ペーパーテスト、豆テスト、 平常の学習活動、提出物等

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。(例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙)

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期において授業時数の3分の2以上出席していない生徒は評価保留とし、評価を「0」とする。

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材		
1	4		作文と小論文の違いを理解しよう			<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みの観察 ・必要に応じてテストを行う ・課題の提出 ・発表・相互批評 	小論文チャレンジノート vol2 言語カドリル		
		1	(1)文章表現・表記のルール	・原稿用紙の使い方や文章表現のルールなど、表現・表記の基礎を確認する	・原稿用紙の正しい使い方を確認させる。				
		1	(2)正しい表現・表記に直してみよう						
		1	(3)原稿用紙の使い方						
	5	2	2	(4)原稿用紙に正しい表記で書き直そう				・作文と小論文の違いを理解させる。 ・構成を考えた論理的な書き方を学ばせる。	
			2	(5)作文と小論文の違い	・小論文とはどのような文章か、作文との比較から学ぶ			・なぜそう考えるのかという理由が示されたか。 ・その理由は客観的なものであるか。	
		2	2	(6)作文と諸論文を見分けよう				・決められた題材の中で、時間を守って書かせる。 ・自分の考えがはっきり述べられているか。	
			2	(7)小論文とはどのような文章か				・誤字脱字はないか。文章表現は適切か。 ・「ごみ収集の有料化について」400字程度の小論文を書く。	
		6	4	(8)自分の意見と根拠を書こう				・誤字脱字はないか。文章表現は適切か。 ・「ごみ収集の有料化について」400字程度の小論文を書く。	
			3	(9)小論文を書いてみよう (10)よく見られる誤字	・総仕上げとして小論文に挑戦する			・課題文の内容を的確にふまえているか。 ・意見と根拠がそれぞれ明確かつ適切できちんとつながっているか。 ・構成メモに基づき、論理的な展開ができているか。	
	2	7	2	どう書けば〈小論文〉になるのかを知ろう					<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みの観察 ・課題の提出 ・必要に応じてテストを行う ・相互批評
			2	(1)意見と理由をはっきり述べよう	・基本的な小論文の書き方として、具体的な段落構成の方法を知る			・何が問題かを明確に述べさせる。 ・主題提示型で意見文を書かせる。	
			2	(2)問題と原因を考えよう	・根拠のある意見作りを学ぶ			・「自分の生き方にもっとも影響を与えた言葉」を1つに絞り、明確に示しているか。	
			2	(3)小論文の書き方				・どのように自分に影響を与えたのか、自分にとってどのような価値や意味がある言葉なのかを具体的に説明できているか。	
9		3	(4)段落構成の考え方		・問題解決型で意見文を書かせる。				
		3	(5)主題提示型の書き方を学ぼう	・「主題提示型」「問題解決型」の2つの構成を学ぶ	・「現代の日本人の食生活に関する問題点」を挙げているか。				
10		4	(6)問題解決型の書き方を学ぼう		・問題の原因と背景を認識しているか。 ・解決策を示すことができたか。				
		4	(7)課題文型小論文に挑戦しよう (8)よく見られる誤用		・「日本の子どもたちが養うべき力」に対する自分の考えを明確に示しているか。 課題文を適切に読み取り、それにかかわらせて自分の意見を展開しているか。				

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材	
2	11	4	文を書く (1) 学園祭について (2) 意見の根拠を述べよう「コンビニ」について200字で述べる。 より説得力のある小論文を書こう	・自身の体験やニュースなどから具体例を取り上げ、論に説得力を持たせる。	・コンビニの在り方について、メリット・デメリット両面から考えているか。 ・社会、個人という複眼的な視点から、今後のあり方が提示されているか。 ・論を支える適切な具体例が挙げられているか。	・授業の取り組みの観察 ・課題の提出	原稿用紙	
		1	(1)意見の根拠を考えよう	・具体的に述べる	・意見と根拠が明確に書かれているか。	・授業・課題への取り組みの観察	小論文チャレンジノート vol2	
		1	(2)反対の立場を考えよう	こと、原因や理由を明らかにすること、自分の意見に対する反論を想定しそれを論破する「反論への顧慮」を学ぶ	・反対意見を論破した主張になっているか。 ・反論への顧慮をふまえた段落構成ができているか。	・課題の提出		
		1	(3)読み手を納得させる小論文を書く	こと、自分の意見に対する反論を	・「夫婦別姓」を肯定するのか否定するのか、自分の立場を一貫させているか。			
		1	(4)「複数の視点を持つ」ということ	想定しそれを論破する「反論への顧慮」を学ぶ	・「中学校給食」は必要か必要でないかについて、自分の意見を明記しているか。 ・反論に対して十分に再反論しているか。			
		12	4	(5)課題文の要約をふまえて書こう				
	4	(6)反論を想定して書こう						
	3	1	1	・漢字の書き取り	・語彙を増やし、漢字を正確に書けるようにすること、言語能力を豊かにさせる。	・語彙を増やすことでの的確な表現ができるように心がけさせる。	・授業・課題への取り組みの観察	・高校生必修語彙ノート
			1	・故事成語		・漢字を身に付けることの大切さを理解し、実践させる。	・語彙力テスト	
			2	・現代用語				
			2	・難読音訓				
			2	課題文の読解、要約をマスターしよう	・段落ごとに文章の意見部分をとらえ簡潔にまとめる	・具体例は省き、筆者の考えを的確に取り出させる。 ・適切な接続詞を用いて要旨をつなげさせる。 ・長い言い回しを簡潔な表現に言い直させる。 ・筆者の最も言いたいポイントを押さえさせる。	・授業・課題への取り組みの観察	
1			(1)意見をとらえて簡潔に要約しよう	・文章の要旨を一文で述べる	・課題文の要旨を的確にとらえ、一文で簡潔にまとめさせる。	・課題の提出		
2	2	2	(2)文章全体のポイントをとらえよう		・課題の意図を正確に理解しているか。 ・課題文をふまえて、「本の科学技術の問題点」について自分なりの考察や解決策を示しているか。			
		2	(3)要約問題の考え方		・筆者の「ブラつくこと」についての考えを正しく理解しているか。 ・具体的な論拠を示して書いているか。			
		2	(4)要約付き課題文型小論文の考え方					
		2	(5)筆者の主張を押さえて述べよう (6)要約した内容をふまえて述べよう	・文章を読み要約したうえで、考えを述べる。				